

## 再評価結果（平成23年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道防災課  
担当課長名：三浦 真紀

事業名	地域高規格道路 <small>かなざわ</small> 金沢外環状道路 一般国道159号 <small>かなざわとうぶ</small> 金沢東部環状道路	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 北陸地方整備局
起終点	自：石川県金沢市今町 至：石川県金沢市鈴見台			延長	9.4 km
事業概要	一般国道159号金沢東部環状道路は、「金沢市中心部の交通渋滞緩和」「広域幹線道路ネットワークの形成」「中心部の通過交通排除、中心部への分散導入」を主な目的とした延長9.4kmの事業である。				
S 62 年度事業化	S 60 年度都市計画決定	S 63 年度用地着手	H 3 年度工事着手		
全体事業費	1,230 億円	事業進捗率	79 %	供用済延長	8.1km(暫定2車線) 1.3km(完成4車線)
計画交通量	35,400~63,900台/日				
費用対効果分析結果	B/C : (事業全体) 3.8 (残事業) 11.7	総費用 : (残事業)/(事業全体) 225 / 1,617 億円 事業費 : 175 / 1,515 億円 維持管理費 : 51 / 102 億円	総便益 : (残事業)/(事業全体) 2,627 / 6,137 億円 走行時間短縮便益 : 2,408/5,653億円 走行経費減少便益 : 84/ 273億円 交通事故減少便益 : 134/ 211億円	基準年 : 平成22年	
感度分析の結果	残事業について感度分析を実施 交通量変動 : B/C=14.1 (交通量+10%) B/C=8.8 (交通量-10%) 事業費変動 : B/C=10.8 (事業費+10%) B/C=12.7 (事業費-10%) 事業期間変動 : B/C=10.7 (事業期間+20%) B/C=12.6 (事業期間-20%)				
事業の効果等	<p>①環状道路の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市内中心部へ流入する通過交通を郊外の環状道路へ転換することで、市街地の渋滞緩和及び地域間連携の強化</li> </ul> <p>②地域連携プロジェクトの支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>石川県の「県土ダブルラダー 結いの道」整備構想を支援</li> </ul> <p>③主要観光地へのアクセス向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>観光施設や能登有料道路へのアクセス時間の短縮</li> </ul> <p>④三次医療施設へのアクセス向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>三次医療施設である金沢大学附属病院へのアクセス時間の短縮</li> </ul> <p>⑤バス路線の利便性向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新たなバス路線が運行開始し、アクセス性や利便性が向上</li> </ul> <p>⑥冬期における円滑な交通の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>冬期間における走行性の向上</li> </ul>				
関係する地方公共団体等の意見	<p>地域から頂いた主な意見等：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>金沢市の骨格とも言うべき金沢東部環状道路は、北陸自動車道、東海北陸自動車道、さらに能越自動車道といった広域的な幹線道路網へアクセスする基幹道路であり、金沢の生活・経済圏を格段に広げ、都心部の渋滞解消にも寄与し、都市機能の向上に大きな役割を果たしているが、利用車両が増加し、渋滞が発生するなど、地域高規格道路として安全で快適な交通環境の確保が望まれているため、金沢市から早期4車線化整備の要望を受けている。</li> </ul> <p>県知事の意見：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国道159号金沢東部環状道路は、金沢外環状道路山側幹線の一部を構成し、金沢都市圏の渋滞緩和や北陸自動車道と一体となって広域的な道路ネットワークを形成する上で、極めて重要な幹線道路である。</li> <li>平成18年の山側幹線全線開通により、中心市街地の渋滞が大幅に削減されるとともに、沿道には商業施設の集積が進むなど大きな効果が現れている。</li> <li>一方で、本区間のみが2車線供用であることから、慢性的な交通混雑や多くの交通事故が発生しており、金沢都市圏全体の交通の円滑化を図る上で、早期の4車線化整備が必要である。</li> <li>特に本県では、平成26年度北陸新幹線開業を控え、新幹線金沢開業の効果を県下全域に波及させるため、幹線道路の整備に取り組んでいるところであり、金沢東部環状道路については引き続き事業を継続す</li> </ul>				

るとともに、一日も早い完成供用を図っていただきたい。

事業評価監視委員会の意見

- ・ 審議の結果、再評価及び対応方針（原案）の「事業継続」は妥当である。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

平成18年に、暫定2車線にて全線供用済であるが、交通量の増大により、交通混雑が生じている。

事業の進捗状況、残事業の内容等

事業の進捗状況：平成22年度末（予定）で事業費968億円、進捗率79%、そのうち用地補償費は189億円で進捗率100%。

残事業の内容：金沢市梅田町～鈴見台間L=8.1kmの4車線化整備。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

- ・ 現在工事中の卯辰トンネルⅡ期線が含まれる金沢市東長江～鈴見台間の延長約2.4kmについては、平成24年度供用予定である。
- ・ 残る区間については、今後の交通状況等を勘案して順次4車線化を整備する予定である。

施設の構造や工法の変更等

- ・ 残事業の整備において、自転車・歩行者の需要が少ないと想定される梅田～金沢森本IC間に整備予定の森本トンネルの掘削断面を縮小することにより、コスト低減を図る。

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の事業の効果及びコスト縮減等の内容、事業評価監視委員会における審議、知事等の意見を踏まえると、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。  
※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。